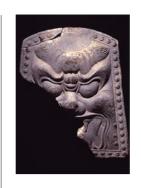
## 字府〈改訂版〉

シリーズ「遺跡を学ぶ」

076



杉原敏之

新泉社

#### 杉原敏之

3	2	1	第3章	3 2	1	第2章	2 1	第1章
巨大な朝鮮式山城・大野城39	平野を遮断する水城32	国防の最前線・筑紫28	軍都・大宰府	大宰府の成立はいつか	大宰府政庁の発掘	大宰府の発掘	風景の源	古都·大宰府
			28			13		4

参去	2	1	第6章	3	2	1	第5章	3	2	1	第4章
参考文献92	大宰府史跡の歩み88	先学者たち86	大宰府史跡	古代大宰府の終焉82	大陸と西海の文化	府の大寺・観世音寺	大宰府の栄華	古代都市·大宰府61	大宰府条坊の復元57	大宰府の官衙・大宰府庁域4	政都·大宰府
			86				67				47

# 第1章 古都·大宰府

### 1 古都大宰府の風景

そして、さらに西へ進むと大きく開けた場所に出る。古代の役所、大宰府政庁の跡である。 くと、一段高いところに三基の碑とともにたたずむ巨大な礎石にたどりつく(図1)。 きな樟の森のなかに、観世音寺、戒壇院といった天平の古刹がたたずむ風景があらわれてくる。 いにしえの建物の跡だとわかる。今日、都府楼とよばれるこの建物跡を、さらに奥へ進んでい であり、西国の古都とよぶにふさわしい風情を十分にかもしだしている。 の古社寺を想い浮かべる。 そこでは、市民が集い散策する普通の公園と変わらぬ光景があるが、整然とならぶ礎石から、 そうした太宰府天満宮の参道前の通りをしばらく西へ進むと、次第に緑が増え、その先の大 太宰府といえば、誰もが学問の神様・菅原道真とその霊廟である太宰府天満宮や周辺 賑わいをみせる参道や周辺の風景は、さながら奈良や京都の縮小版

る (図**2**)。 跡であり、

あわせて大宰府史跡と総称して

だされた礎石は、 寺など、古代大宰府の 大宰府政庁や水城、 その実態を失った後も、 さらに対外交渉の窓口として栄えた。そして 地に置かれた巨大な官衙 とき、その感はいっそう強くなる。 源にあって、生きつづけてい とよばれた当時 のかもしれな この地が積み重ねてきた独自の歴史の重さな さらに、背後にそびえる大野城と重ねてみる たとえようのない威厳をどこか感じさせる。 それは現在、 かつて、律令国 ほ かに類をみない、 61 太宰府市域を中心に広が  $\vec{O}$ 一家の 秀麗とよべるだけでなく、 九州や周辺の島々を治め、 大野城、 てい 時代に造られた施設 西の拠点として、 古都大宰府の風景の 大宰府は、 ねいに三段に削 さらに官衙や社 る それは 西 海 道 0



図1 • 大宰府政庁跡の礎石と碑 正殿跡の礎石は平安時代の再建時のままで、柱座の径は 60cm を超える。その上に 建つ3基の碑、背後の大野城とともに大宰府政庁を象徴する景観である。



図2 ●大宰府の位置

かつての筑紫の中心、福岡平野より十数km 南となる四王寺山南麓の開けた場所に、政庁を中心とする古代大宰府の重要施設は置かれた。鴻臚館を外交の窓口として、玄界灘より続く海路によって半島・大陸とつながっていた。

#### 2 風景の源

#### 大宰府の成り立ち

元、 がある。ただし、記録に登場するのは七世紀に入ってからのことである 大宰府は、東アジアの歴史と密接なかかわりをもって成立した。古くは、 那津に官家を修造して有事に備えた「那津官家」に、 大宰府の軍事的. 起源を求め 五三六年 る意見 (宣化

は、 日本書紀』推古一七年 のちの大宰府の呼称につながる「筑紫大宰」の初見であり、 (六〇九)、 「筑紫大宰」は百済僧の肥後国葦北漂着を報告した。 外交機能の起源をこの

後に求める考えもある。

り辺賊 敗 衛施設が造営された の連合軍に敗れた。この敗戦を契機として、水城、 であった。 戦以降に西海の軍事権を掌握していたことはたしかである。 六六三年(天智二)の白村江の戦いは、 (の難を戍るなり」として、近江朝の援軍要請を断ったことから、 朝鮮半島に百済復興の援軍を派遣した倭王権 (図3)。その後、 壬申の乱の際に、 大宰府機能の成立を考えるうえでの大きなできごと 大野城、 筑紫大宰栗隈王が (当時の日本)は、 基肄城など、 この筑紫大宰が白村江 北部九州を中心に防 白村江で唐 筑紫 国 は もとよ

「筑紫小郡」 がある。 六七三年 天武朝以降、 などの存在から、 (天武二) には、 筑紫で外国使節を遇した記録が多くみられるが、 「筑紫大郡」で高句麗使邯子や新羅使金薩儒などを饗応した記ってしておきしおり 那津周辺に饗客施設の整備も図られたのであろう。 あわせて「 この筑紫で 筑 紫し

外交を掌握したのも、筑紫大宰であったと考えられている。

府にかかわる機構の確立がうかがえる。 なった。翌年には、「大宰・国司、 六八九年 (持統三) の飛鳥浄御原令の施行は、大宰府の成立を考えるうえでも大きな画期とあずかきよみはらりょう 皆遷任せしむ」として人事発令がおこなわれており、

に及んで、令制大宰府が正式に発足したと理解されている。 そして七〇一年 (大宝元)、大宝令の制定によって、 吉備大宰などほかの大宰が廃止される

### 律令制における大宰府

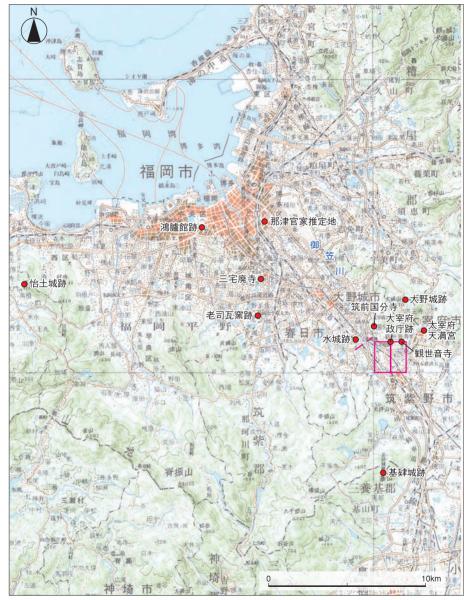
『養老職員令』大宰府条によれば、祭祀をつかさどる「主神」、長官である「帥」以下五ようのことのよう 日本の古代律令制における地方最大の官衙である。

監」二人、「大典」二人、「少典」二人の計一二名で、中央官司の定員よりも多く、 等官の規模は、「帥」一人、次官の「大弐」一人と「少弐」二人、以下、「大監」二人、「少弐」 れば、大宰府に関係する人びとは一〇〇〇人に達したともいわれている。また、中枢である四 の官人が配され、書記の「書生」や下級役人の「使部」、雑用に従事した「仕丁」などを含め 帥の相

位は従三位で、中央の八省の長官よりも上であった。

る。 大宰府のおもな機能には、外交儀礼、軍事、西海道を中心とする九国三島の統括があげられ ただし、 職員令に正式に規定された独自の職務は、蕃客、帰化、 饗 讌という外交儀礼に

関するものだけである。



#### 図3 ●大宰府と関連遺跡

白村江の敗戦を契機として、沿岸より奥まった地峡帯に、水城・大野城・基肄城などの軍事施設が造営される。その後、大宰府政庁を中心に都市が整備され、西海道統治と文化の拠点として、多くの官衙や社寺が置かれていった。